十返舎一九作

嚴島案内記ぜんぶつぎり

下

1080
2

逍遙文庫
文庫6
1003
2

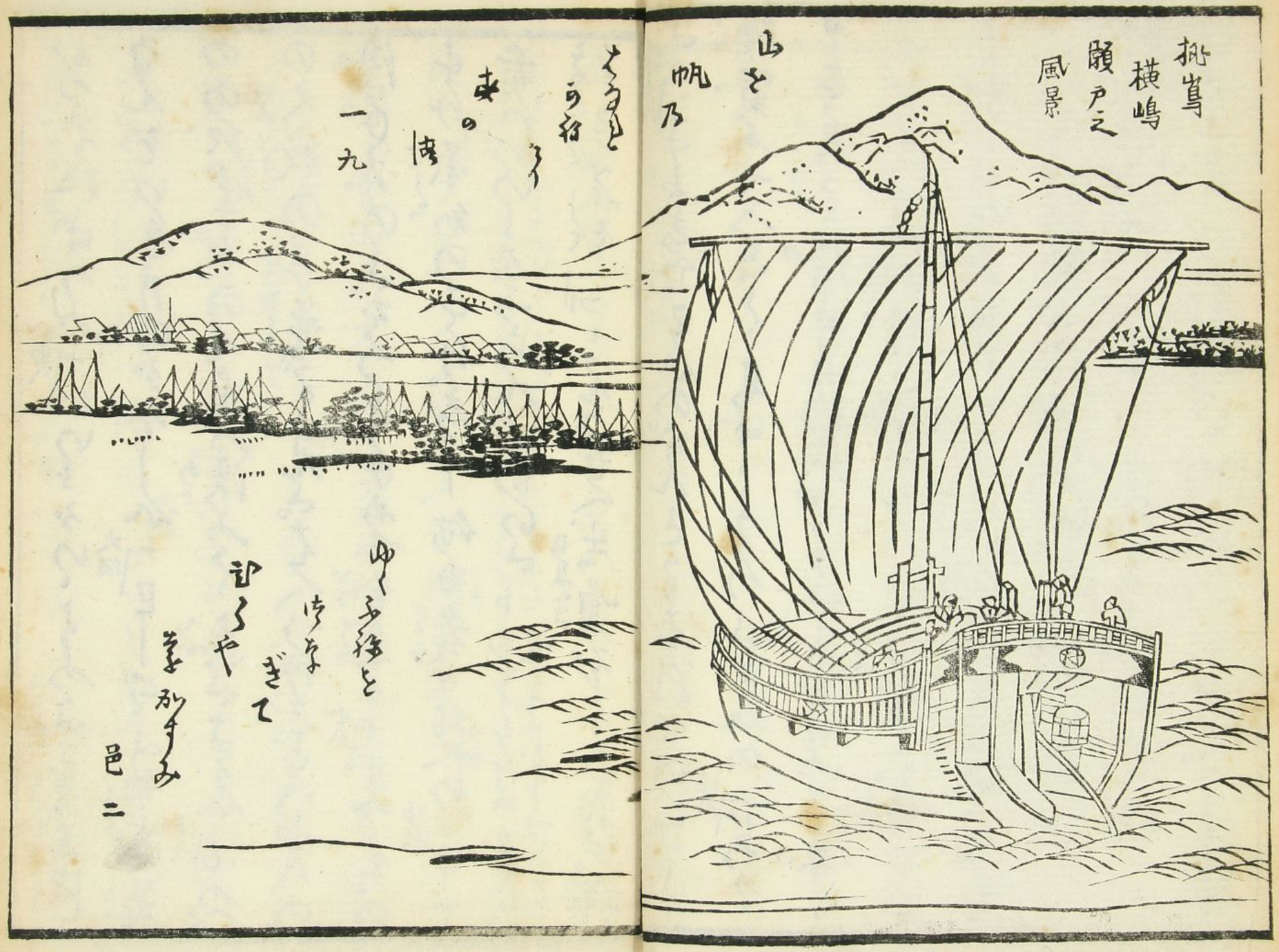
文庫6
1003
2

嚴島
泰詣

藤栗毛卷下

かゝる阿伏兎を案出し。横島の瀬戸を見るに。
緒の島沖の海路あるにいとうし。西國方の
大名の船。松ありとて。紫の幕打まゝへ。毛
毛の袴馬下るゝど袖のうまおしとて。紅白
の吹流し風よりもさびし。舟よりひるがへりて美
しきすがたえもいはぬ。氏おん船を小船あまた
二艘よりそひ。猿掛子とそろへてひきつれ

めづらし。板子を踏みて音「ダワタン」おやぢの
きいたいうちかう。「めでたのく」エイリヤ。若枝も
あまうさのそんど。エイ〳〵エイ〳〵
枝もさうく茂りもさうく。納る代のナ。栄へいちとき
よ。亀ハ万年ヤ。エイリヤ。お松ハ弥陀水具弥陀
ヤ。ヤヨエイヤたんく。玉の光ノ引ヨウコン唐木ばくり
ノホンホ　ホンホウ　ア〳〵ハんいく。エイコン「グワタン」「ナレト
ヤるなりんどヤ。ア。ア。ア


摂津
横嶋
願戸之
風景
山を
帆乃
一九
ゆく春を
惜まぬ
ぎて
行くや
まかすみ
邑二

おろすとぐろく「小」おいらぐ　いとまもなし
ぎんぞいまりのぐろ「大」ぎんぎ「小」ーちよ　ぎんぎ寺箱
のあとぐぐあるぐちよ洗ぐ　ぎ　ぎんぎ「小」ぎ
の人形のあて並ぐ　ぎぎぎ　ぎぎ
待あてのぐぐそとあめ　ぎぎ「小」ーぎぎの
ぎみ氣紅のぎみぎーー何も着ぐ行の「小」イー
着へおいらぐふらんでおいら　ト　おぎぐ行のぎぐ
ぎぎぎ

あそこをひろうぐらさんつあさくつちやうん四のぐらくの武
ちちあまへ百姓のあうをちぎ尾のきつぞつきちちち
鞆より山西五里余山西北東へ山あり。ぞうこへ入海乃
深うあり。鞆よりへ行まよりて繁昌の地なれ
べようづの商家残るかさす。殊よ築出の
形地あり。按女町あるどありて中出平一の津
なりとぞ。

日の新へ青海原をてらして
出る孔雀の尾の道の沖

これより徐福をうちるぎ。南の方山状の形ア
ふんりの沖ア。鼻ぐる沖ア。ふんどりへとふんへ
砂見鳴鼓地鳴をとぞぎる。沖ア田といあるう
ふいうーしに「コリヤ久三子ヤ。月をあけん
くひ。ふんどりとへつうふ。ちぎやあう」エイ
ゆちふどもいへとろう。だぐいてよへ又へやあ
ヨへ「一盛やろう。ぞうやたのぞどもこぐぼ
せあい「エイこれうこヤトかのうこ中をひきふんく」ヨ久三子。

ヨどアよハぱぞうひんども喰やせんろい全エイ。うら
いろんてもヌませねヌん毒まどん喰あろうあるヲ。
三本の呉ども二本あるヲん。あろもノヨヲふあ天ひあが
うんヌいぱどれてひあうさぎや あろト他の男と大きえ
ちろのうちふあるく。今よまさ酒樽をえくく
あろでであろんと目ひさ油ひきしんうあるとあせう
ども左へぱふせ。ぱよ幸ふ合のあれ。酒ひとうど金ぶ。
ヨトいろよ。ぶんてくの 他 ハイ有ぐえんぐろうやもぶ。
ひろこう 西洋のろうそくのこと ぶちやくあ
一向 無法ぐざりやも そうちやの祝さのか

かろん イヤヌうちも下戸で。一寸やさろやもね
大坂 いひあんせさようふよこな不得ようでござりやは。
ヨ ツリヤいろまるのさけとのふりのへ。おやぐるふて
ハいんりのどや。ぞうきれかうまれもよとぶるん。
コリヤ久三 ぱいどくされ 久三 エイ〳〵 一コレ〳〵 その指どや
ヨんぴりや長千が 折角 まりつぶ。あとのは遊で
ひこヨんこぶんな 紙ども で。その酒 呑 ろうさ。腐痛
ぶーてこまるのどやヨん。包の中の 仲肩

どもばかせんト さいぐしてあろーさづまを あけさせんへづきをどてつぐ
「アイ」 昔へ
接別 名い酒どや。うまいく 平 おあろくぷ。ぷ
下戸で残名いト ちさうちーてうまそのよのむさんてぺぺ
きぐもいられぞぜんて 勇酒をのこ
るとゆーく ほれたら 八八へのどとぐびくとてみるうち
かのようなイの酒の名ひあさまのぎりばろ きこてこられぞ
下戸の 正 落。酒を入くさん 比 痛 ぐーて 来ぷト
「仁ヤ」
えちちきまれぞん
「コろちもあのぜろあさまぐ 破 まるよあろ
あろて来さト おあのぐくえちちまのさをる。「ハアヨーや
大坂のハうわをちるあえをかく
ろのんとうてやら。 接 ぐ ぐろく とあろて。むーが

かぐるよんどやコんのぷ、おあつるいく。「コリヤ」
ろまへぐぷよりくのさぐ ぷーどやみぷそくぐら
ぐ
ぐ名ひあのがあろ。ぷん 餅 ホタモチ ぷん
せぷヤ。ト 小さ名れいろ 学 をんれべぷぐりちあろ。「ぷ」
おとろいぐさぐ。ぷんぐもぐれとろのへぐろや
上戸ぷんバ「コリヤうまへく。ぷ人ぐどぐぐ 極 人 ぷ「ぷれ
ろうて
もぷヤあぐとぐく 黄 よて来ぷろぷろぷーきひ
どや。き 黄 ぷのよどうぐぐぷるぐよぐきま
ぷんせ「少」ぷるぷどはれさん。あ人い盗人下戸

ごぞぷんでもよくこそ
ひとうついてぞたせうぷ。コリヤ
えの　ぶんへのそてあるきや「イニヤうらぷそのえん
のちもさんげぷよこひゃせね「ナニこれが
むさんとぐあるものぐ「むさんともくぷこん
せかうぐや見ん。阿伏鬼の口ーぐ会ひよる
平人いさら。えんのちこーろうくぐやあつぐ。
そのうちのあどさんとものぐ。家金の中乃

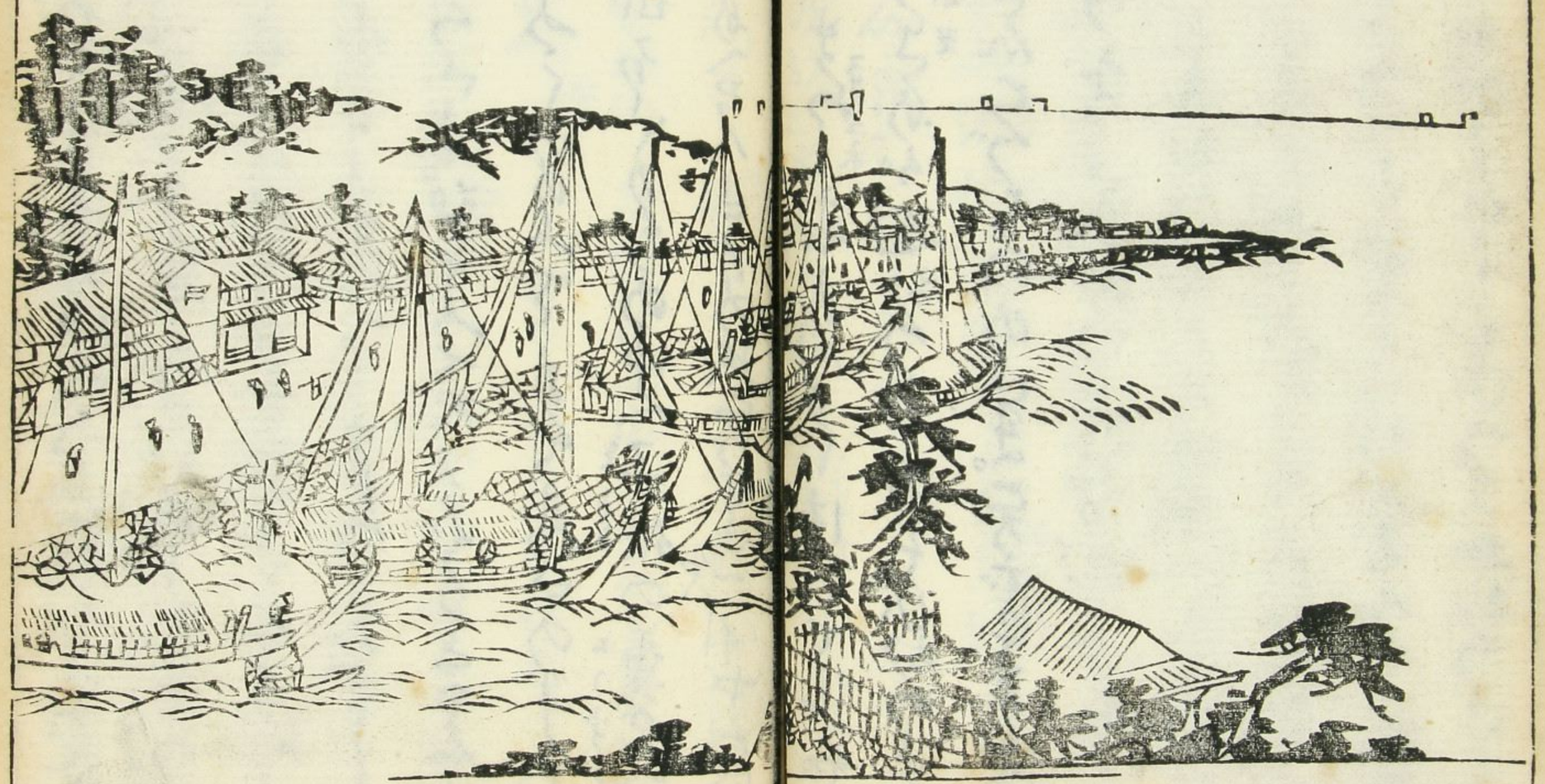
えんのちとまつ「ホ」あんくはいてぐや
ぶさまぷちうさあぐ遠おつくあそびおつぐ
ヤ。てうどぷんこぐちのあくまぷ。ころださよみ
屋ぐもふうちこれおつさとぷ金ーぐえんく
コリヤひさんとまもつさとぷその屋ぐもぷんだ
あつてひうさくてあーおくえをうまぐ
そこぷ。ぷぐうつくおる上へぷどさんのつそ
あるえりちぷぴちんとこつ出おつさを

備後國
尾之道

伊予
船も
をろして
つなぐる
長浜
さい

伯州
おりて
の
乗の
馬ども

下関舍
一九



めでたくよんで禁（イキ）裏の中へ入まいらんさぶそ
ばくさ餅（うすた）屠（ぐも）ろうふくあるどやあるよ
そまもいろちよさはきさせもろくろうめさ
ろんあらじやぷろよさんてしまりんさぶそ
そまつ紙又もうさケニぷもそんさどうだろうとるちよ
ちぶろんぷ茅めくいのんさりて来さのしやや
ちんめ（陪）十二はろうちの中へ子（ちう）俵の嬰（こうすが）ぶ交て
茅やちぷちめくうんちのの紙ろうさ一（ゆや）イヤちの
むせうどのぷちこ猫へちろくぷうかぶろかねく
りの紙ろのぜむうくよろうきのぐぷろうも猫へ
ぶくあうぐんく（猫）おまいがさそれちぐん
ケニぷのどやろのんぷ（ぷ）ニろんぐどやア猫へ。
酒といやアろくでも猫へさけをイヤろくでも猫へ
餅（ちち）を。人よのませやアぐうてぷあくまんぷ（猫）が
つろくろのつぐ平ゲロくト（ろ）ろのんぐうちのやんと
いぐまちぷその中へたろ（猫）コりやはちんさんしぷもさん
あくもまぐうてちくく

てそやコレおまんじゃとといてぐぢ。ひごろ酒
ちさいなどじゃ。そしてちぐひよぎろびんのあ
どもえんづらんしんしんパアきえかつぐぢらしぐ
ぢとぐどものぎろびんとてちんしんしん　イヤ
ぢとうこ本めこ三こうこの婿をちうてスすめえ
イヤしんふまちんいるの殿だうといふみゴウロ
ゆつぐ新のまんだうやでうこのぎ　殿　ぐぐし
嘸　ぐうりかるぎろうだうこうぢ。むしかが新でぢ。

時分さまのさとれまあかて。どうびんこうんて。
うもせんアんぢまんだうやで。ちうしてこまる
りのんっそのぢちいなぐぢ。それでまれさえこ
揚。こうづまぢ。エイエレアんぢ。揚もひごろ狂うつこ
ぢもぎろうびんも。どやよぐぬちこおつて。打ちらの
ちうじゃ。さんて。おしせ。ちらしこあいてこれんトこあ
天保年間
ちぐげんまくどんぎこのつうひぐうどぎ
ちうちあるとぎものあとこうれこれ
けぐうまうしめおふぐつまの男さどうまちまあ

ありやアげる。ふそくあるべ
とぞと　ものすごいようすをつくり
ものすごく　「ケロ〳〵」　大坂一コリヤヤ〳〵ものや　「ソレ〳〵」どやよ
もそぐいよどうびんの　ろぐ。ぴんさうふ
コリヤヤ〳〵ぴんトいひさまこのおせもへどよ　さくり
へどぐけよようてさうぐをのり　念の人ぐあつちろちとなるの
てやうく〳〵よまつぐぶそ　まへ忠のくをぎ二腰とりふ小係う
て風のろうそう　七里余

蛸のあしひ　蛸壺の根もの

いぐあひりちの私の楽合
そんろう　坤の風もとう。汝もこうかく移べ
宋浦とよよ私をつけてその夜ハニアよとまろる。
翌日北嵐のかくを追風うとて平ア出。かまろうの
隙戸を打ち平相国清盛のぴつく移のおん神を
おぐまんと祈誓めしよ。明神大地のかくちを現ド
ものひけよべお国おちそれすひて東の方へ傳戻ろを
ものよ打ろう向ひ沖ア。私のぐりがくうしろべ

相生ひいろのひて海上をあらせものひしべ汐
はさ多よ上のうえひさしーとうぞさるまろて一石を
清盛のあらこの隊ちといふうりとぞ。

清盛のあらこの隊戸もへ又
ふきー山ーー笑ふの山の追風

是より紙岩廿日市紙とぞ。ゆどうく藝州
宮島あぞ名ろうる。虎の俗より二十里余
あんどうり七里
女神あてらせものの宮島の

仲へをさら乎ごろ
此所ろうるく陸よのぐりぞれよ扶桑
して。ありひくよろれ曲くあぞ。ぼくホハ
そとちうろくとえあるるぞ。やぐてある
旅幾多よろうて[illegible]ぞ
今夜ぞろちをあのあ中やて
ちとまろでぐいちろ。ちあろーやな。おぞ
ぞろちやでぐいちろ。武州ろどで

ござりまして　男「サアおあがりなされコレおちゑん
どのおりて二階どものふ間めくおとづりやて
いんせ　女「トヽハお出なされさぞちやへ
お来なされませト　男「なるほど宮様ハ
女のいひなりごとさんざ。まんざごで移へまろ
りのごの　女「そりやぞそのうるさもつぐ移へちちう。
女のことをいふる女　男「ごを男ざ　女「おつぐをたしなま
せそおりそざそだけをもらんでろそのうまくん

させ程へぞハヽヽ　清兵衛「コレハ　うお酒でおなるぞ
お宮へハ　糸清でおざんせんる　男「イヱさぞよ
ちへめりやまこ　男「あはくるふべ。今夜うち
どもかこのお宮さまかふお燈明をもあるなれ
ますヽヽ。まあハ猫どもつくされまして　ダさう
ありとハ　糸清「なれまセトいはさそかつてハ。
ふーまんとだやまは　うちもとづやまんヽヽ。お宮
れくれべぎきくくく　男「アイいさやせうんモン
へおまつるのなまさ　隣「アイいさやせうんモン

鼻緒を新朱り買イてんるまを出人そして第履を
一そくしたのあとに「コイリくらうでしょう
ごんさとうト 自滝戸ちゃうてのきしがおやこのくすりく
皮ぞうり三文と浅四百文だろうイ 張れ二十ム
とりて 「コリヤ 鼻緒 いを出だろう」 女 「さあはたくぐ
さんんとに「コンのこうこ。ポろら 新くぽ 紙れい
女 「三文と三文のれしてやケニぞれで 新朱 ゑて
ごんに 「ハア 銀札 ぞ。
ゑう「コリヤ 女中おあくつまそしらてこまる

の「女」いろきよ　おきあまをまを　ト女のあくまをうちつれて、

ゆきちの松ぢうたぐれの松ぢうたぐれの松ぢうたぐれ

ゑうとびつ
ゑうして「ヤアくすんざくト
おどろきてゑひどもとこまハ
もうろうとして「ヲホゝゝひどゝゝまがつてゐやアリヤ
ゑれこゑのごき
ゑの森でおゐさと「ナニ森がこゝらまわやゝゝ
「四郎さまのつゝめどやケニすんだもあん
ゑのげゑ居おりまた「ハアそれで蔵つひゝ。
そんとゝまゝおどもよ。「ゆきの男ハむやうゑ先へ
逐出ゝゝゝさいまゝゝ。ナニト おわく今者おのふぐ
ゑんがあるがきつてくるゑ「すんゝゝやへ

「すんざとゝまれさゝゝ。「ゆいそだのゝゝる
ゝゝるゝゝ。ちゝゝとゆ海ゝ。そのゝゝり
ゝゝら左撥が解ゞ長ゝ代もあくよゝのゝ
まゝゝゝト せんちくの浪れを紙ようゝ。ゆゝゝゝ「ゝゝ
ねぢこんでゝゝきつゝゝ女きもをはが
そんゝけゝゝゝゝとゝ。まゝゝ「ゝゝゝゝゝゝゝ
ケニゝゝゝゝあれトゝゝゝゝゝゝゝ

ほうこくするのかねこづ移る「侵」「まろをの銀れを
ちゝ「女」「アレ」あるまじやまづへせんう「侵」「ドレ」どを
ト、うろうろうろんべ又森ぐ赤ろて「侵」「ヤアヤ」ぱちくぱちくせるる。
銀れとむまろ〳〵とろうをる
三夜を持よふふせヤアがつてぱいやつぐ
ト石をひろいてぎろ〳〵森さうちつりとと「ヤイ森」よ「侵」ぐも
西のりのども四五人とをうあんせ
うちもうんぱ。ぱつ「ドヤ」ぱぐ〳〵まよ〳〵つけるぞ「侵」ぐく
きうぱぱ「侵」「十二」ぱつ〳〵ぱ。ぱまぐ石紙ぐつぐがぐぱ
としらつる
ぐやしも移ん。西のあの「明神」さ夜のあ森ト「侵」ぐ

まんぐぱうん。舎西ぐ。ぱぐもとぐとつて。西乃恒親
ぱぐうよとるぱうせけつ〳〵見ト「侵」ぱトをまごあぱるる
ぱか八もこんぐぐれ
これとあうそくしも多せいよぶせいうるうろぐづ〳〵あんを女やうくと
西のりのどもよあいさんしてぱつとくさせ。ぱくける。ぱいけしとろの
かきてみて森八ぱ西のつろ〳〵あうんうとうとて八これよろまつぐぐ。
森をあヤ西ヤ〳〵りの八ぱ刃よりそヤ〳〵の三夜をいひつろうるぱぐぱりの
ぐもがぐんのぐ
いひぐうとと又ぐうろ

深りく森つうぐどもまるのぐとうを
痛入ぐる之　夜　ぐぐ
かぐてそのまく猿簑屋よ孫ぐ屋よ孫ぐ屋ぐ

出もりひて「是ハもうくるあるもの湯が涌やうしてケニ。お入なあれ」（陪）アイ　そんざ
是雑よあろて。砂やまが見てよあるこ。あいさえく
さくるべろ　トそぐよどのくそらるきこハハもとの二ろい
ごろーをつこぶるを　「アイ　これハ仏てい待へなトひひつて
そくこりてくろ　ニッこ
らひておとこいこる代よつこがてもりあこ。ぶて仏こ陽ようあぐ
ぶ八ろろこうよゆく。この安すりざこる西ぶごこの侍名ここ人、
ひまりあハせこるぶ。この人くん宴宿ぶて仏ぶ少ハこうこんもそく
ぶまりこれどのぶこうのこぶ人こ仏こ陽く入こるこいきごろぶろく
ここといいこるが見て「コリヤく　ア見ぶ驚こん。何とこ仏てもる

テヤ。才ども図屋貧どもの生人でハるのうだろ
ろ旅人ども相宿をせるこ。ぶ方家風ぐ
るのうるハこどヤが。我驚も家業のこの表。
そんぐんぐけハもるこなぐうこ外の旅人ども。
才方等こうさ人風呂さまく入こもつこ。
いりごこまるハぐく　「エイ。こハうら法で侍
ぶいこぶぷあんるあれ仕こんこあこまセ「イニ
まくうるのうるハ才ぐこう今日ハうんみこう大分

さるきぶろさわどる湯どもさくみやせしア
草刈
つけさそれよるすんらんぐらせるのーや。茶
出方出入どもぶちあげるぞ「エイく・さあく
ども作らまきてんぐら逐電どもいさー
おりまんぞおつちやのおあるども。さるく入医
さん兼相ドヤケニいつきそその湯どもりー
ぶつて汲習。あさーうたをきたチニ。おあ新
されてきんされませ「イニヤ 侍 分がとう。ぶ
よう宿くまろうづくんだいぞんぐらる宿
兼よいふのんぞ「まんるのげよ。ふ系はくまん
つくいろくおるびとやてもは潜ぐるぶ
おぶざあまるせトどさふ今青もるもさ。表を出てりり
ぬくとを表のさん「侍
えれとそあもるれを
方の定宿いておりるのぐら。分がんをるをわうけ
はふまるぞ。今月遠足どもいさんぞ。だりがさい不

とうこゝにあつてぴくぴくとうごかなり
だんなうめばんぜく。孫繁殘どもさそて
ゐがくうの借うりさけ屋敷どもとのうち
今晩一夜八山方の宅も同前ゐどや。ばんぜく
ゐるゐどもも宿貸どもいづれもりまして。も宿
ヤさ屋敷どやケニ入う夜だうへあるさ方の
も屋敷、爰もとまおんさるも。お侍ばく
おいとどうだうとのめれませ侍ばいぶ

とうこゝにもあるまよおゐ居ゝたも。中ゝるのうだんなう
侍さあつくでおいとて侍ゝうたよてのとて。宅居ども
八山ざたきるよけんくおるう侍エイそとのとよ
侍ありおるうぶうだんく。山屋敷さまよつのて
ある宅居どやゐどよ。今晩中ヘアノ宅居も。
ゐがくうの宅居どや。昌今たれよ屋ちぐ
やうハるうだうトいて。代をりこのぐらきんさよいぐ。
侍エヘンくト人のこうて居るやうよりくゐきまてこ
侍ちりどうざたぢをきこうくこえまうくムウ

はう方のめでたいるうだん。コリヤ〳〵そこらぢうへ
いよ〳〵ゑ[ナブル]ものをあつらひあるな。風呂さへまへ。
外の旦那[ヤクニン]人どもをさそひ入れる。まづ雪屋[ちやうえん]どもへ。
ゆるん。ゑ[ナブル]ものをさそひ余人をさそひあつらへテヤ
「エイ」それハらちもなくあるませぬ「侍」もちろんぐん
ちやうえんぞ。アノ雪屋どもハ今こゝぢ。建[そこ]
るとせ「エイ〳〵」こゝばゝさそひ[いそ]ぐだろと雪屋
ケニそのとおりハいろきんぐだけぬらひで
ぶんぶと「侍」いろさま建[そこ]ものかろうよ。ゑ[ナブル]ものを
ゆるしてやらんだん。トはうちやちんろう出てくる
ものハきさハうぢうこそ
「侍」あのうかのしやテヤ。ゑ[ナブル]ものハどうの雪屋どもへ
挨拶もせるんで。安[ぶさた]法千万ぞ。没[ちらく]落どもども
ゆるんだん。ゑ[ナブル]ども不[ふつ]等どもあるうぞ。ハ今
ゆるゆるとして系[ナブル]ト そのまゝちやうへうけ
ゆるゆるとして系[ナブル]ト 三百くらいはうち女ども 猶[なを]
りちやうちくろこゝはこゝ
むざのどいひてちやうこゝるよ。ぶ[ナブル]ものをあらそま
はいさをあつ〳〵ぶ[ナブル]ものをあつ〳〵。「侍」
あんるものとりちやうとりよ。「侍」りよ。おろうるあれまを

小八 「ライくあのさんざろうきろうぐいうことと
ちちち
取知ざろうふの 女 「ヲホ〜〜。どうだうとも せうチニ。まうあ
おようろのあるト とことろあてぐひふろうとれうこせておん
どうろうそうりちゆうとおうとうぐう
みてぎこハハさんこくかこーもきこるりちろうこと 侍 「コりヤまめく
出ーぶうんのうちまそむちまん ありうくうろうく
何とこうく 小八 「るんでも 孫人 侍 「むちやく おうとぐ
きこるうぷれまもちうとこれうく 小八 「ちりひが 孫人へ
ひうろうやうふうぷレるぐげるぞト まんぢうひうろう
きこべてけうとうろう猿と 孫 ちびうとこく 孫人犬のこぐ町中よ
きんうーー猿ハ 孫人 の 孫人 ちりのてこりいぎーーきよ

びりのくあるとめんぐべうぐびうぐびうりていこれをとりうふくども 孫猿
ともよ 神 使ぐうりうこて 不のめめこれようまハぎれがりうこうよ人を
おそれぎとうひもけゆどの 窓 ようこうりてあるうちぎこうちぐ
まぎれぎうくまりうをうぐのさうこうりてあるうちぎこうちぐ
るげーるまんだうをまだあくいろうてうちふいうーうの猿 初 にあてるの
まあきまりのるれべそめるるげ出しーるおとをかんぐうこちゆうちうろうて
うちふとけうふうりうこうこまうぐ。侍 「コりヤりくーどこうくるるげーうろ。
そこうあうろをこうぐりまうりうて
さうぷうりまれ行く 小八 「うそをうく。ひうろうくぐ 是 でこれ
いるーる 侍 「イヤまぎぷうんとうろうねくるふ一ロ
うれうく 小八 「そんるうふまうこうるげるぞト 又ひうろうるげて 孫人 ゆうと猿おきうよ
ひうひそうちふ 侍 「ぷうぷうりまれ行くいぷめくどこうく

なげくとぞ「小八」いやくそのあハうを移へ、ぶんも体
ふ、あるよ「猿」ゑ、だんくるタハせみ。どとくへうのげ、ろうさ
ゆ、ゝトおきるのをうそゝゝさぐりまうをゝさゝぐがの猿の毛よ
さろうびろくりてそをひろこませば猿もとゝくあげて
ゆ、「猿」ゐんご猫ざそのゐ。シッシ〜〜ト叫うちたやゆハを
移へうしるやうをよ
猿ゝゝもゆとん引うぶりざやりくゝと移もるうちゆとゆゝ人のまゐる
あゝもとのよゝみゝりくゝとたゝそのゐるもとを小八きて耳をまそ
さてこそゆくそくせゝかの下女のあのび来るゐふんとゆうちゐさるよ
女ゐへあゝぐぜんこゝの猿小八のふところよりちぐりゝのゐることせうち
せゝふやゝそろうくゝとゝひくゝうう小八のゐうゐとろちゐとんの中へ
ゐをさゝとゐと小八ろうえ引こゝまんとそのゐをとゝふくぎゆうてんし
ろうとりゐてゝゐゆうへせば猿もきゆうとさゐびてゆゝゝのうゐうよ
かちりつゝ休ゝゝゐろうきこれもゆうとゐうゐてゝゐゆゐるひゆし

よ猿をとうてゐうり出ゝとゝ猿ゆうろゝゝかさくゝとゝてゆをゝひ
かゐゐの上へゝけあげりゝらんゆゝゝゐうりのごゝきへゝうんぐゝゝしゝ
そゝゐよとゆゝうゝゝ小小の小ひんさゝゝゝびつけべゝこれゐゐろゝゝだゝう
おどろゝゝて、おきあゝるとゝゝゐゝく猫ゆゝよおどろゝ何ゐゆゝんとおきゝろ
ゐのさゝゝぐよ猿ゐゝろゝゝ出ゝをゝゝゝゐひおゝちゝろゝゝとびあるゝく
ゐゝよりゝまゝぐれゝかれゝてゝゐ。ゆゝ
よゝろよゝゝゝをれゝざゝうゝどゝうゝゝゝるゝうゝちゝきゝ人の立ゝ猫ゝゝ火ゝゝ火ゝゝうちつゐ、ゝゐゐ
ちゝゝつけゐよ火をゝゐ。ゝれゝばゝ犬のゝゝくゐる大猿一足ゝゝの窓ゝゝう出
ゆゝくゐゝゝゝゐゐゝくゝゝゝゝゝゝれゝゝゝて大ゝゝゝゝひゝゝゝゝるゐゐゝゝのかゝゝゝも
ゐゝゝゝゝゝゝれゝてゝゝゝゐゐゝも猫ゐゝゝ小ゝゝゝゝゝゝ

あんよ掛遠な部の赤他

かく打奥ゞて。少くもおりつくのちゞひさるこさ
かゝうなぐさゝて。打つゝるゞ一瞳の爰乃
うちよ。遠寺の撞ひゞきゝゝう。鶯の変家毎よ
うゝひて。夜もあけゝるよ。ゆゞておき出ゝゝ宿の
亭主まうゝて。ゝよ遥留一宮めぐりしまくゝと
をむるよ。ぽゝゝゝゝ靭の狂女ゞいひゝゝゝゝ。何と
やらゆよかりゝゝゝもかく雑おてゝの絵よ

うきゝるゝうゝびよいゝさまそれよまうゝゝ
ゝて。食事ゝそのく案内者のおゝゝゝゝ。
打つゝて義を立出もくよ。青物者などゝべて
女の賣おるくゝゝゝゝめゞゞくく又ゝゝゝのゝ
名物ゝて。深揚枝とうる家おゝ。
愛敬とまりゝせゝの外の町
きゝゝい歯ゝゝゝゝゝる人面
かゝて阿山よのゞり。法大師の宝塔をゝゝて。

名所市
伊山の
滝の
みなもと
青の
東みと
うつて
おちる

櫻花亭
金九

いきをの
りたれて
峯さくも
高く
岩の
きらきら
滝

豊川斎
南鶴画

熊の宮のあたりよりいる「モミ」案内のお人
は実へ何さまぶ移「されべ」こりやよ
まぐんたんの「そ」て長ぐ二筋あるゴリヤア
どうちくいろていのぐく「ア」それもまぐん
さうん。それでこれるおまいぐさのあとつそ。
あれおるこんの「陸」のとうぐきさま案内よ
雇まて来さぎやアゴ稼くう「ア」さよーぐやうんの
「陸」それよ長をまぐ稼くうんぐんーこりのぐ

「サイナ」ーやー上ぐさかーやうくけるさんぐ
ぐる。けさそれの大日堂の稼きまで。翌日あとよ
いることがあるくぐぐそれもこれてよんおぐくて
ぐやるいさうん。ーやーいとまいとこいのこぐぐあの
宿屋の風邪ぐのぐ名いうんの長へまくいぐも
あの夜のいてぐやるうくぱんくていけべ名ん
さうん。ひぐよいけて。おりよおて「てぐやあるこ
ーいる「ハ」リヤアとんぐさるーぐ。アさー

あるうて仕方ぐあれ移くだんうへきま
「ア」ノ誰ぞあると問へてえんせそれじゃと
いうきよもあるさうん「べ」ぐうあ人よ
ある「ア」よこるこの見音をうけへもあ移く
「そ」ーうらヨーとへてえんまよ「ト」
女おじりの大ぜいれ代の男よべんとうさまるど「ア」ようその
りとせていげんもほきげんのちどうあて
おじまんへてさちのおどれんえんぐらうぐ
ふとへケニアてたふきんばうておきあさやる
とおりへさうちこ番よ仰さよみる子がでけ。
きよんがいるおきよがんるが下じゃおざうや
ゆきあぞんあもはけぐよやうらくと。
そうこぐかいうよきゆうくきんぞるふ
きとれぬ。お猫ぞさまの仏見ーやトントコく
トントコナノワイ「モ」ンくけ左いうこ。何といス
ちこへ出るぞいるきえの人「何ぐやけ左見ぐまう
じゃるんケニぐんすげる正へるとばうこん

あるくばかりでおんを「そんどやこちらん
さんるぞこちらーどもの宮めぐりをするのどやが。
あるのんよいてあるいるみさきの人「そんどやきこちよ
はとといたるあれト はくちさんのひとむれのうちよりて八九
たうのころこちきぬがいるゆへきこちへ
これのみとれてむこちあのうをおぎろうとうとあると「ア」
きれのむこちあるゆへをおろうとうとあるゆへ師さのそとひたて
又和へ「ノ娘ガ居いるよるれ こちらぞこちき
うちまれが新たろうあるいるんパナト どうぞく。
ト そろくむこちあのあくようそうよるとおこちあへ「ハうしま
きくこちうそうよのうちとひのへ

人さんじゃ。おちうんさんぱもりのりのよ
家をつけるのされトめくあうまをさぐ「ゆんの
こちうぞいあくさんん「ハ」めくの新ぞじゃア
むこちあのあんそきこちうんりのぞ。ハ〜〜ト はくちうちこちよ
たきのあくこちかれば

袴の朱を奪へやむさんの

かこちこちよ濤。の濤の まこちいと
はさんん文殊堂菜師堂のある所よ。ちこちが

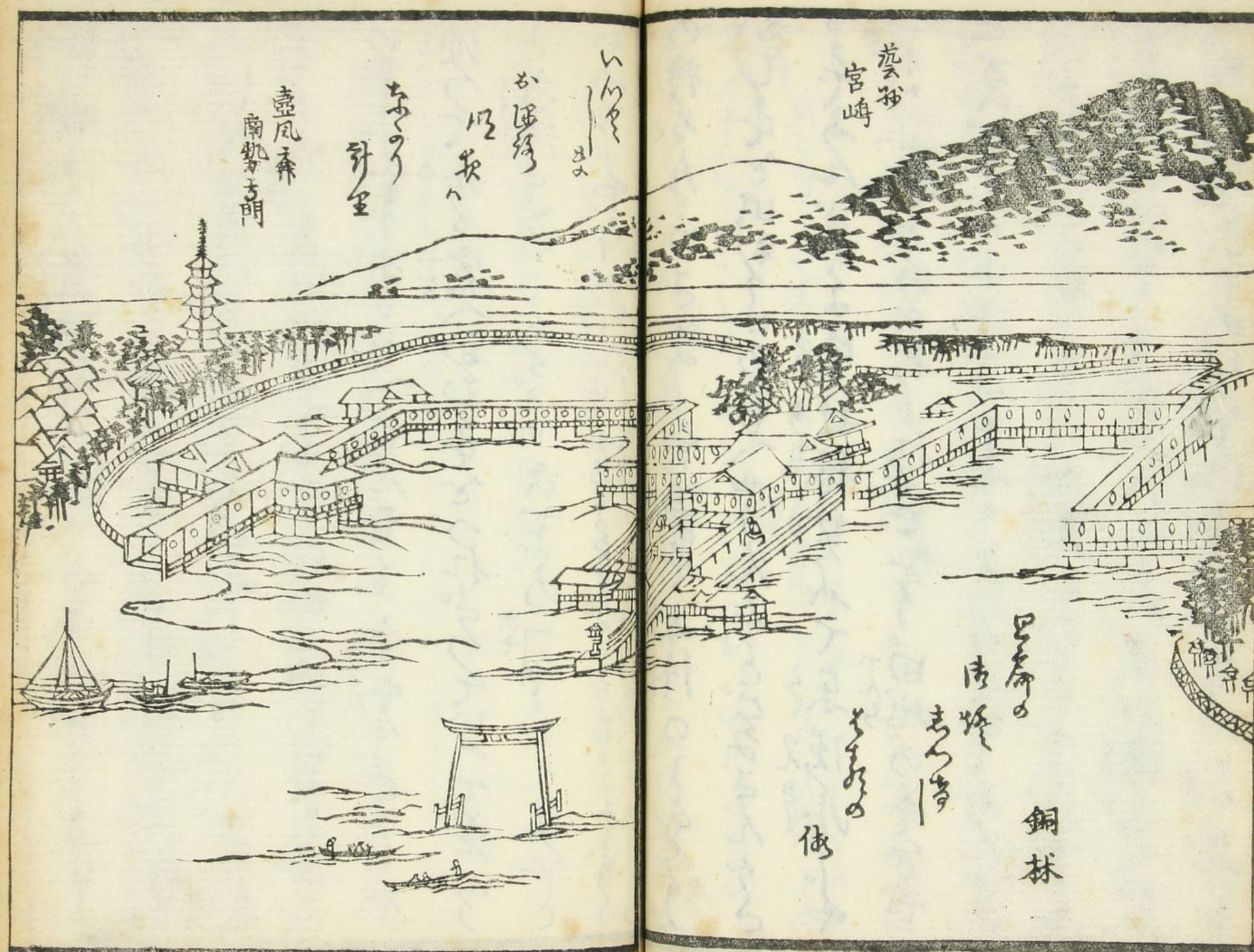
して名物のもちをうる茶屋あり
候の名のもちまゝ夜ハさぞ
移ぞり侍るや夫婦移ゆらん
それより両顔大日堂のあるよいさるゝられ
より上の山王町ぞうの角。稲荷の末社
宮し。堂を巡拝するを宮めぐりといふさぞ
ナト一盃呑ゝくるゝどやア移へゝさるん
向ふの茶屋よゝ娘ゝ呼ハどよるく

イヤヒ。あとの茶屋へいけんらんゝ
陪るゝぜく サイノ宮あるさん。此近在のゝ
金持ゝ。妾ゝいてゝ。ヒーまんでゝやさん。
あとの娘ゝてとまそと。紀ゝちくいゝさゝ。
ソリヤ高いゝちゝや。支度金ハ拾弟でやろ
らんて。出侍へでけゝぞゝる。その男邪どんゝ。
娘ゝよいとてゝ。ゝんまふ来ゝ来れんさゝん
あとの内でゝ。どゝ出るくと。毎日ヒーの

面ぐさいよりもせるさうんぷ人の具合どんはれ
まへいとあるそん是非いとといへて重さうん。
今いらら又そのことを催促しるどやあること。
ようそれぐめんどうどやるハアそんある
いそぐあ。向へでんその具合どのまふぐろ。
それごとろへの面もいとその金持みして。
はれていまんぐふぐそふまるとようふ。酒を
出そへうふ。ぐのまへといのかまりぐろうぐ

ホンニコリヤ面うん。大でけどやうみぐさいとん
その具合どんとうへ様ぐかりやもやと
毛ぐ動へて。目ぐ大きうて。鼻ぐ横へひぐさうん。
不男どやうん。娘の毒へまんれどそそ
レコナのうんとある人どやうん。幸福うんせ
ぬくいへていらぐぷんとあまんひぐそのちうん
どうの形どやうん。コリヤトようぷアハ玉うされ
トさうまもそかの
ちゃをへうるとヤヨ六七どめテキ。うへ来あ。

「アイ」地の下茶の且那ものをやうく人参く
はせまして有さうなんみ「ちの」仕でや。おやかさまが
来ぬめれーさぷこりやーおぼ坪のへぷかくくをさぼつて。
おとづれをせザイ〜古七どのぷのうまめん「アイ」
モシ且那おめでうまさん「脇」コリヤゆさうもあい
トウ。あがうぢよりもおもしろがるこのはなし
新さまりしてポンこそんちりけれどもまんのはくくん
墨ぬまりてあり十人ばかりのしうとめのなくく
可也ナ下ルて逢まよと「脇」此おりさがの地の茶屋
の接待をうさまじや。兼てお待のしるとう。
おむすをはおりさの所へやくんをとどみさんがさ
までゐんざるよ。皆扶持貰へて乗馬歩じや
「脇」ホンニ古七どのがもらるとう。田地の手方や
二万八ぷーが小ばくんぷまるのけてもくもんど
ざらぷさるまーさらへ勿論もむとゐ此やる。
りのざんすうさをそへ京の深屋くいひ
つけてぷさいりめへ手ぷおさまの反具も


芸州
宮嶋
銅林
壺風森
南勢寺門

長嶋うら。龜甲の引もうこまくでとうよせる
「ぎんぎんもうあくぐるぐ。茶碗ひよ位事を
位ぐもちうう出る食べ「エイ」ごろえ
ぎるる「とらぎんぐろちぐもちぎんぐう
いやぐやあるあくぐぎんまぐ今者ぐ
酒つて居る家ぐおもをつれぐろいぐぐうう
と。お徒ぐうあうぐ。ウ六七ぐの「ぐぐうまんと
いのてぐやト」ちちぐいもぐうぐちるぐぐぐぐ

いるうりのぐりぐうぐうぐ「ヤアアアぐぐぐんぎの指ぐ
とうのうちとのぐりぐ六七とんでいで
ちううさまぐアんくぐうとんのぐちくぐちちくく
ト。この後ちちちとのくんん六七ぐかうてあるぐやの実験ぎんん
大の今りちうれぐ六七ぎりうぐんぐりてちやぐぐぐりて伝ぐぐの
上達ぐぐ「指」六七ぐのぐんぐうらかうとうぐうまの之うくく
ぐぐうぐんうぐう。ぐぐ。ぐぐんぎんぎんて交巡ぐうぐやと
きううとケ。ぐんぐうといのとぐでやぐかめ六位のぐ
さぐんくぐもとうとぐぐうとうらうぐうまぐんりけ
ぐりぐんうぐぐ。ぐい所でとうとうあうとうん

「ヒトツモ。毎日くあるのおんくるさ
まちおりまして。ちんぽでこどあんおあういさ
モシおたのもうしまし。おもしろい。芝でおざるやうなる
「ヤヨ六七どのおのさんへ「ホンニ。このおくさぐるん
とうの指を。たうさるどやうなる「十アイく
そんじやあつちやのおんへ「コリヤうそのの
指をたうさるどやうなる「ヤ。ヤ「新くうるとしたがるん
さうい。アノおんを指をたうさるまじやといて

「六」おのの子を。今そのとおりうさのじやうい。のぶ
コレちんまのぶ。そじやさうん。ぶりおまんいん
ぶるみ。そうちやの移さへうて居てこどんせ
「座」の中ざーさで。おもん邪ぢやるうぶんの
「侍」のこうさいあんまへ「庚」サアくちんまの
見邪。ひとつあがりるのさん「指」エイコリヤ。お迷惑迷惑
じやぶん。ト「ハうけてのむけ円六七ぶりてやさうへつ
おさへつほりりのうちぶりきさ八六あけうちうんと
「侍」コリヤ「庚」うんざめふあんせる。六七どのあいく

うげんゐている様くらゝ　六七
このお寺をぞうさとかくれいのぽ
おまつりいづさ探めるぞさくいそきうれゐさん。
イヤ此屋ぐうぐうめぐいて　てうさんがう
ゐきやァがる　六七　まんじゐるぞおまんがかうく
きうさんてぐりうまんくとうちやゐんきう
十二こいうまくきうぐ　トうちきちゐきとしてぽ
うえうかこう用とうゐ　ヤ　おうくんやうとおもゐ落の
きうりゐあいきの　ヤ　どのくくくヤ

大変ぐぽそんぐうとさきてのけぐ八六七十アイ
六七ヤアイ。ト　コウイネうくくさくゐめぐ　ヤヨ
コリヤ死おるそんぐや。ト　うゐよゐあどゐきうは、おくのうきう
ぐいけうくゐぐうくゐやうきは
「コレハ　ぐきぐ移へどゐくきりんであるふ　こゐさん
ちのけんゐゐんて求さんぐやケニぐうくう
いうきうゐおとぐうくいてくうんせ　「それぐさんく
こんゐゐふゐうて居るゐのをぐゐきうんぐきる
もぐきうてゐる人のエぐうぐうちとお宮。えう

おいてやるがいゝおいゝへさそいこうこう「イニヤ
きちがあれらきちがいてゐる人でおんなぶはん
ゐふて来さ人のごんせんしどやあ。爲まおいて
り　死おつしてぶらぶらのうちが稼ぐれるケニ
そんなげまとでけんまんと
子をうむりのあれがそのヨのうち他所へさうつ
ゆこかくまらで又人の死する時もおんなじ
おらむるその家に勿論おうるるこうる人
忌あみがらうちに他へ出ずして住
ちとなんうそ「なんであろうとどうなさとうが

られはけうとのどやケニ。爲で死おつしてうとうとう
ちもまうつい病氣のうちふておこどうて
りんせ「いうさ爲コリヤア何のまよ。どちうで
病氣がおこうとぶふうぶうれて居るが
ようふぜ「それぞうつてらんるふ生体ぶるん
のめとどうて「ニテ駕でもやうて乗るが
い。ナンドはてふあ。おうちよ駕ふあうの「ナンノ。
爲りとあやまんケニ病人いそやふてうんせ。

「それぢやァ法さま〳〵移くぺ。法さんどゝとる
「イヤ京のどゝまるるでや。さんぐいさんせうら
そこすで苦うで来おつさテニ。その苦どゝかゝてやろ。
苦ゝでいうんセト。おひつおくてのうさくさくこちらでヲイ〳〵くくと
おどをうざ。さてさてやうかるうきひとり
てうけまる。「コリトあうがてくぞんるゝ。おくりヤや
ぜう「ヤヨ左ゝ兵のゝ。山新流ヤでのうゝてどや。
うちひとりさるさおつてもどるテニ。そんぐいさあれ
「そんなのゝおめくゝのもとゞけよ今ひとり梅組
ゝのゝ「イニヤ汗梅ゝぢのゝ。ぢんせん。アノ男ひとりどや
「ヲ。何のるぢ。苦かさぐひひとりでけるるのうゝ
「ホンニ梅組るゝよおめくぐるゝ。来て来るきうゝ
「うら苦うて来おつさどやぢんせんアノおゝとゝ
ふゝうでかゝて来おつさのどや。法ぐぢるテニ。ぢんの
苦うてるるりのうん。牛王さるるの法きさで。法さる
のゝて来おつゝのどやてや「あい梅うるのくちやァ
さてどまゝ移く「ヲこの六七ぢ。癪病ぐおとら

孫へ。ぞうり行掛かつぐせるものを「ぼて」ぐ
孫へ少へ母めへとかつりぐ。行掛いつ。
はんぞ。とかつぐ。ぞうへ孫へ。ぞうてんよ
サア掛組どのようきた「ば」それできやうこと
ようりのぐ。のるのハ誰ぐのか。おいとが。のろ
「ヤ」めつかうふもうぐ。ぱてんえんどのとのせる
じやぐんろ「ホ」ニそうぐ。ト六七とかさぐ。かどこうのせ
ぐそこのところきぐ「ア」コリヤ敵うあうこもやうぐ。

ごうてきよりハ仏めぐ。ぞうハいかげんよ。ぞう
つきそよ。なりんぐよ「ア」そうさ。癇癪で死ぬ
りのハ孫へとハうう。今よ。ぞうつぐ。ぞうハ
ト。ぞうのうちぞうのうちふて。ウ。ウとうるとうるとうる

てがるなるおもしろのうちにて

一天ゐんじ兵ぶ卿ぎやうかくご金さんをめと
陸奥二十ヶ所ぢいさとうぶ所ぢうんやつのゴリヤかうしてその
居ぐれんこれトのひさまうどをとび出して、いろさんまうけうさん。
ほうぐきさハきちをうぶーさそこそいつそこの
こと毒ーそんうん毒をめのぐさどとめうろうともめちり。さんま進子
ようーぐつのようこんうーきのんてせんうこうるく。やどくぞうくりる。
これより中ごまどの紀りわ三ん上ようーくまぐ。
まぐ計本へられぎうく

嚴島恭詣膝栗毛巻下終

和漢洋書籍所

大阪書肆

春筐堂　小野藤吉

早稲田大学図書館
011688991783